

令和5年度 認知症初期集中支援チーム事業報告書

○事例提出数	157 件
うちエントリーのみ：	7 件 (理由：入院3件、別事業優先利用2件、訪問拒否1件、身体面アプローチ優先1件)
○訪問対象者数	150 件
○モニタリング終了者	147 件
モニタリング未実施：	3 件 (理由：死亡2件、転出1件)

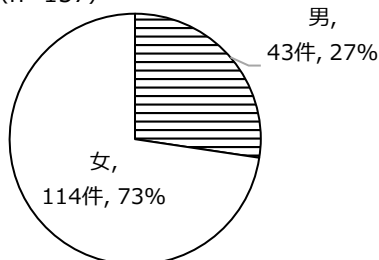
【令和6年11月末時点】

1. 事例提出の内訳 (n=157)

(1) 性別

男	女	総計(件数)
43	114	157

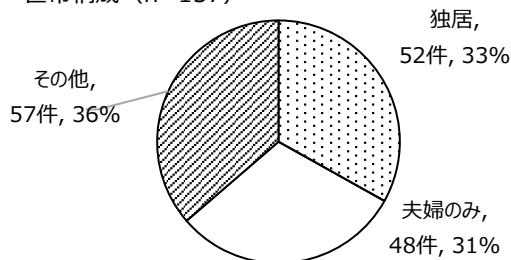
性別 (n=157)



(2) 世帯構成

独居	夫婦のみ	その他	総計(件数)
52	48	57	157

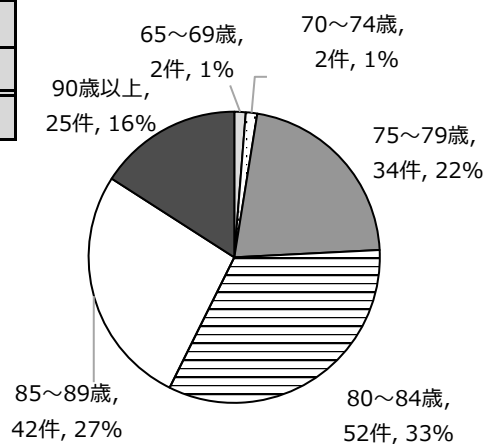
世帯構成 (n=157)



(3) 年齢

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
男	1	1	9	13	12	7	43
女	1	1	25	39	30	18	114
合計	2	2	34	52	42	25	157

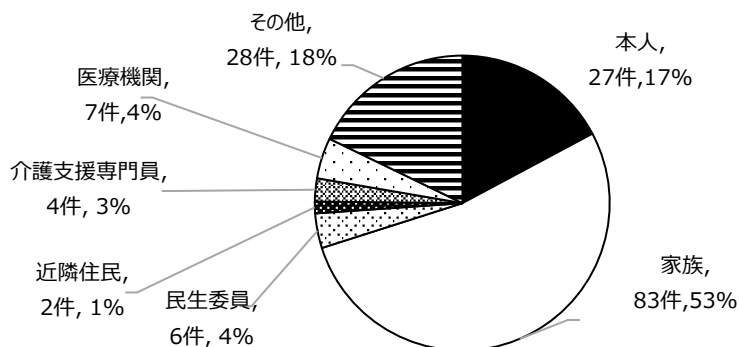
年齢 (n=157)



(4) 把握ルート

本人	27
家族	83
民生委員	6
近隣住民	2
介護支援専門員	4
医療機関	7
その他	28
総計(件数)	157

把握ルート (n=157)



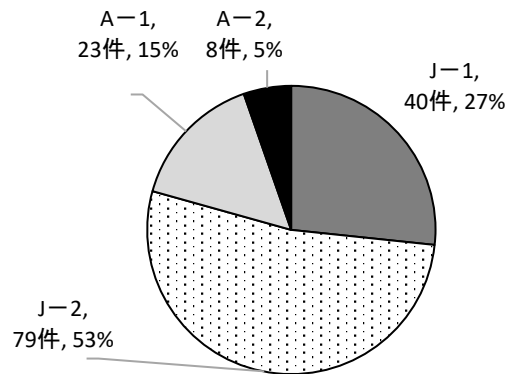
2. 訪問対象者の内訳 (n=150)

【令和6年11月末時点】

(1) 障害高齢者の日常生活自立度

J-1	40
J-2	79
A-1	23
A-2	8
総計(件数)	150

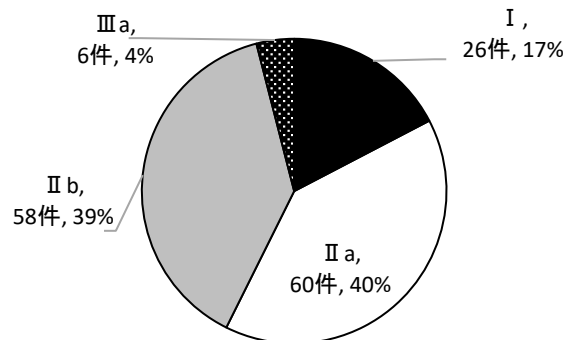
障害高齢者の日常生活自立度 (n=150)



(2) 認知症高齢者の日常生活自立度

I	26
II a	60
II b	58
III a	6
III b	0
IV	0
総計(件数)	150

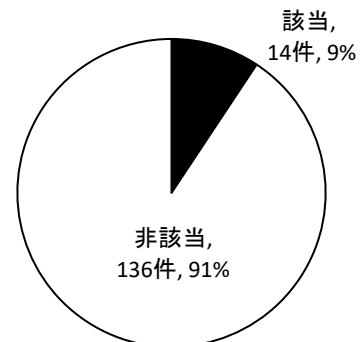
認知症高齢者の日常生活自立度 (n=150)



(3) 社会的困難事例

該当	14
非該当	136
総数(件数)	150

社会的困難事例 (n=150)

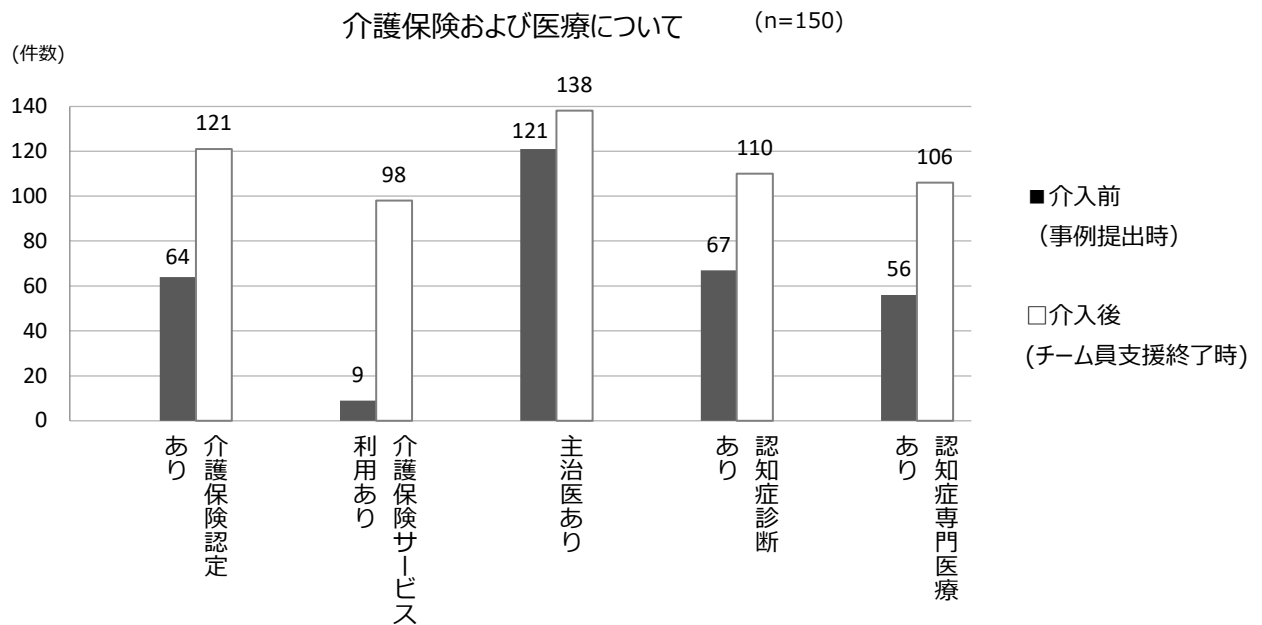


※社会的困難事例とは

独居、高齢者世帯、キーパーソン不在、近隣からの苦情、消費者被害等に複数該当した場合を「困難」とする。

(4) 介護保険および医療について

	介入前 (事例提出時)			介入後 (チーム員支援終了時)			合計
	有	無	有の割合	有	無	有の割合	
介護保険認定の有無	64	86	43%	121	29	81%	150
介護保険サービス利用の有無	9	141	6%	98	52	65%	150
主治医の有無	121	29	81%	138	12	92%	150
認知症診断の有無	67	83	45%	110	40	73%	150
認知症専門医療の有無	56	94	37%	106	44	71%	150

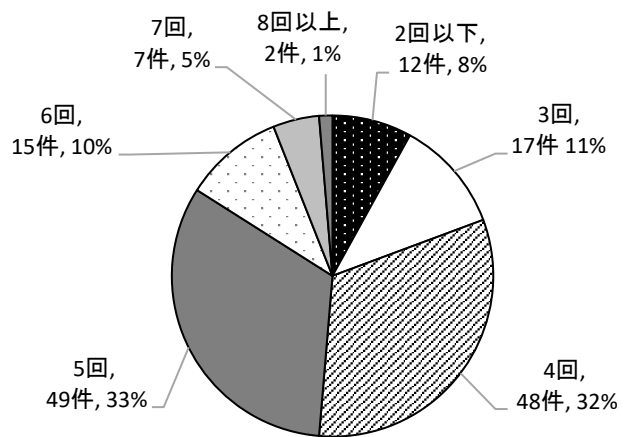


(5) 訪問回数

2回以下	12
3回	17
4回	48
5回	49
6回	15
7回	7
8回以上	2
総計(件数)	150

・訪問延べ回数 665 回
 ・平均訪問回数 4.43 回

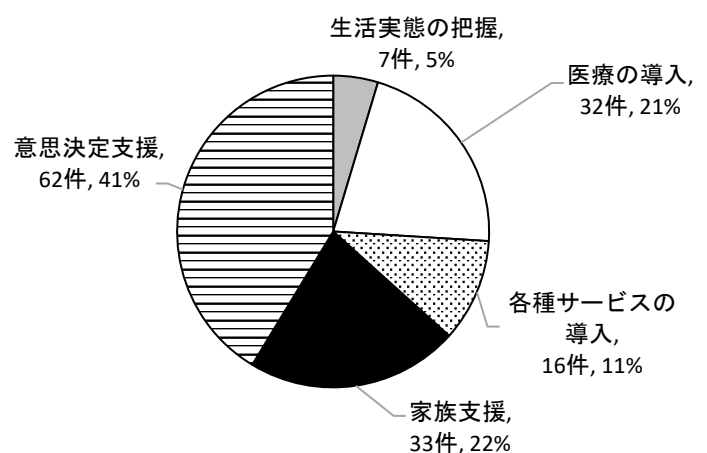
訪問回数 (n=150)



(6) 支援目標と達成度について (チーム員支援終了時)

主たる目標	件数 (実)	目標達成件数	達成率
生活実態の把握	7	7	100%
医療の導入 (※1)	32	31	97%
各種サービスの導入 (※2)	16	15	94%
家族支援 (※3)	33	31	94%
意思決定支援 (※4)	62	61	98%
総計 (件数)	150	145	97%

主たる目標 (n=150)



全体の目標達成 (※5)	620	605	98%
--------------	-----	-----	-----

- (※1) 医療の導入は内科系・認知症専門のいずれかだけでも導入ができた場合を達成としている。
- (※2) 各種サービスは、介護保険サービス、あんしんすこやかセンター事業、地域のサービスなどインフォーマルサービスなどのいずれかの導入ができた場合を達成としている。
- (※3) 家族支援は、家族に対し必要に応じて認知症に関する情報提供や相談、医療機関受診勧奨を行った結果、負担感の軽減、家族関係の良好化、相談ができる支援者となつたことができた場合等を達成としている。
- (※4) 意思決定支援は、認知症の症状がある人が今後どのように暮らしていきたいかの希望を確認できた場合を達成としている。事例選定の段階で、認知症の初期の事例が選定されることが多くなっているため、主目標を意思決定支援とする事例が増加している。
- (※5) 副目標を含む全ての目標についての達成状況を示している。

3. モニタリングの結果について (n=147)

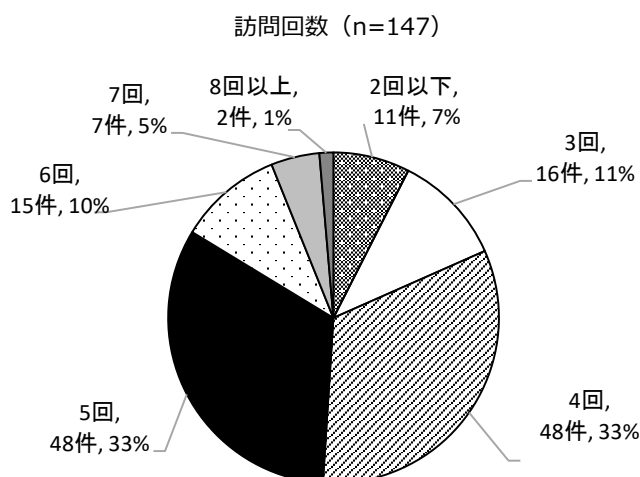
【令和6年11月末時点】

※チーム員支援終了の概ね2ヶ月後、モニタリングを実施する。

(1) 訪問回数

2回以下	11
3回	16
4回	48
5回	48
6回	15
7回	7
8回以上	2
総計(件数)	147

- ・訪問延べ回数 655 回
- ・平均訪問回数 4.46 回



(2) 介護保険および医療について

	介入前 (事例提出時)			介入後 (チーム員支援終了時)			モニタリング終了時 (チーム員支援終了2ヶ月後)			総数 (件数)
	有	無	有の割合	有	無	有の割合	有	無	有の割合	
介護保険認定の有無	63	84	43%	119	28	81%	131	16	89%	147
介護保険サービス利用の有無	9	138	6%	96	51	65%	85	62	58%	147
主治医の有無	120	27	82%	135	12	92%	131	16	89%	147
認知症診断の有無	67	80	46%	110	37	75%	107	40	73%	147
認知症専門医療の有無	56	91	38%	106	41	72%	99	48	67%	147

①介護保険の認定の有無

- ・介入後の時点で認定を受けていなかったのは28件であったが、モニタリング終了時では16件になった。
- ・モニタリング終了時、介護保険認定に至らなかった16件は、本人や家族が必要性を感じていないが5件、受診拒否のため主治医意見書の依頼先がなく申請できないが3件、死亡が3件、インフォーマル・サービスの利用が2件、家族対応が1件、本人利用拒否が1件、今後申請予定が1件であった。

②介護保険サービスの利用有無

- ・介入後にサービス未利用は51件であったが、モニタリング終了時は62件であった。
- ・モニタリング終了時に未利用だった62件は、必要を感じていないが12件、インフォーマル・サービスの利用が6件、家族対応が6件、本人利用拒否が31件、死亡が3件、施設入所が3件、検討中が1件であった。

③主治医の有無

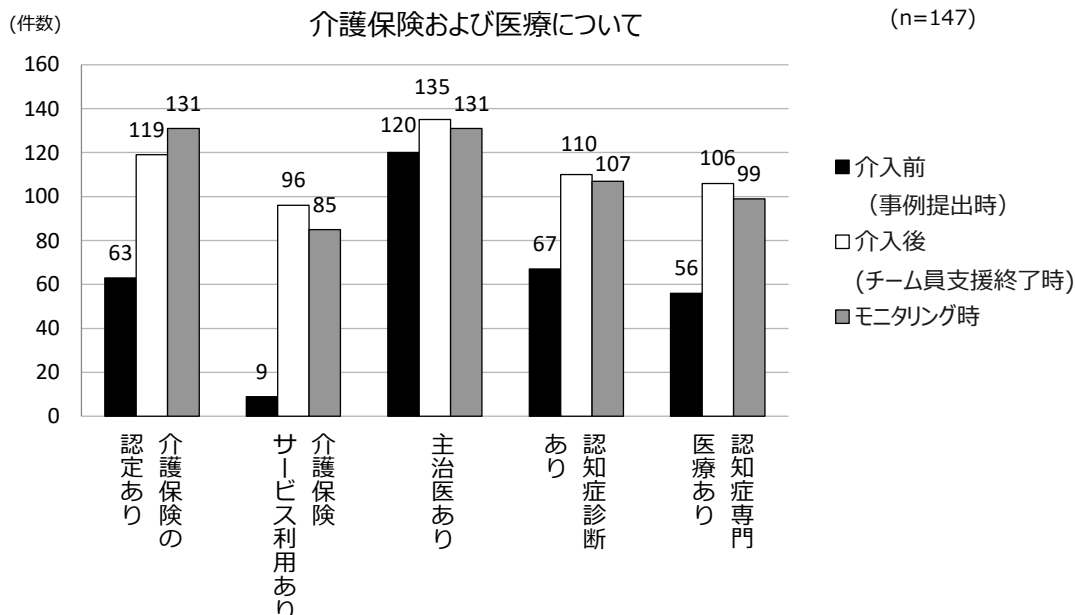
- ・介入後に主治医が不在だったのは12件であったが、モニタリング終了時では16件だった。
- ・モニタリング終了時に主治医が不在だった16件は、本人拒否が8件、本人が必要を感じていないが4件、死亡が3件、入院・入所が1件であった。

④認知症診断の有無

- ・介入後に認知症の診断に至らなかったのは37件であったが、モニタリング終了時は40件であった。
- ・認知症診断に至っていない40件は、本人が診断を希望していないが17件、主治医フォローが15件、家族が診断を希望していないが3件、死亡が3件、状態が安定したが1件、他疾患の治療を優先したが1件であった。

⑤認知症専門医療の有無

- ・介入後に認知症専門医療につながっていなかったのは41件であったが、モニタリング終了時は48件であった。
- ・モニタリング終了時で認知症専門医療につながっていなかった48件は、主治医によるフォローが22件、本人拒否が15件、死亡が3件、入院・入所が2件、家族が希望しないが2件、本人が必要を感じていないが2件、他疾患の治療を優先したが1件、今後受診予定が1件であった。



(3) 支援目標と達成度について

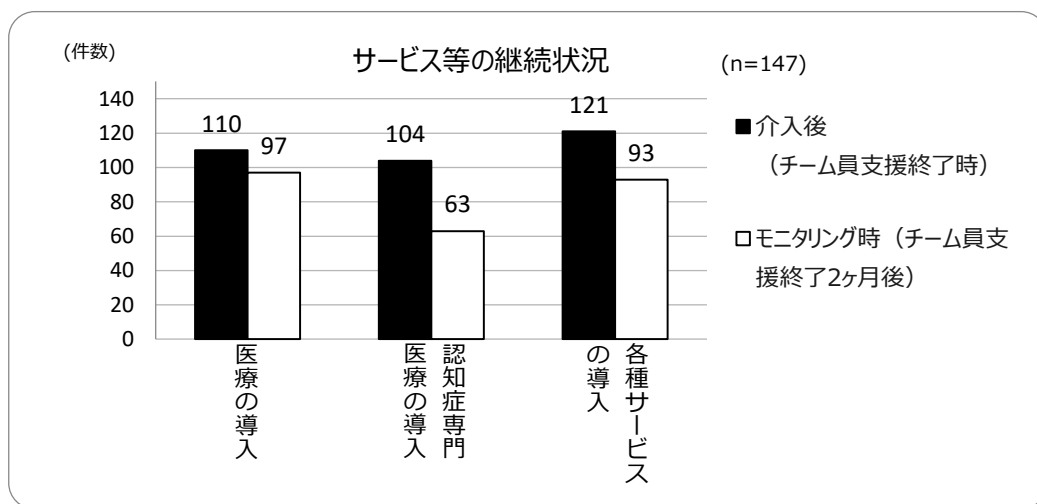
主たる目標	介入後 (チーム員支援終了時)			モニタリング時の状況 (チーム員支援終了2か月後)		
	件数 (実)	目標達成件数	達成率	件数 (実)	目標達成件数	達成率
生活実態の把握	7	7	100%	7	5	71%
医療の導入	31	30	97%	31	29	94%
各種サービスの導入	15	14	93%	15	9	60%
家族支援	33	31	94%	33	29	88%
意思決定支援	61	60	98%	61	55	90%
総計 (件数)	147	142	97%	147	127	86%

- ・主たる目標として掲げていた各項目は、介入後の時点では高い水準で目標達成しており、モニタリング時も概ね継続できている。

(4) 副目標として掲げた件数を含めた医療の導入・各種サービスの導入目標と達成状況について

目標	介入後 (チーム員支援終了時)			モニタリング時 (チーム員支援終了2ヶ月後)					
	件数(延)	目標達成件数	達成率	介入後の継続状況			(継続+新規)状況		
				目標達成件数	継続数	継続率	目標達成件数	件数(延)	達成率
医療の導入	114	110	96%	110	97	88%	110	97	88%
(再掲)認知症専門医療の導入	108	104	96%	104	63	61%	104	65	63%
各種サービスの導入	124	121	98%	121	93	77%	121	117	97%
総計 (件数)	346	335	97%	335	253	76%	335	279	83%

- ・医療の導入において、介入後に目標を達成していた110件のうち、モニタリング時に医療が継続されていたのは97件であった。また、モニタリング時点で新たに医療の導入がされた方はいなかった。
- ・認知症専門医療の導入について、介入後に目標を達成していた104件のうち、モニタリング時に、認知症専門医療が継続されていたのは63件であった。また、介入当初から中断していたが、モニタリング時点で新たに認知症専門医療の導入が2件あったため、65件になった。
- ・各種サービスの導入について、介入後に目標達成した121件のうち、モニタリング時に各種サービスが継続されていたのは93件であった。また、モニタリング時点で新たなサービスの導入が24件あったため、117件になった。

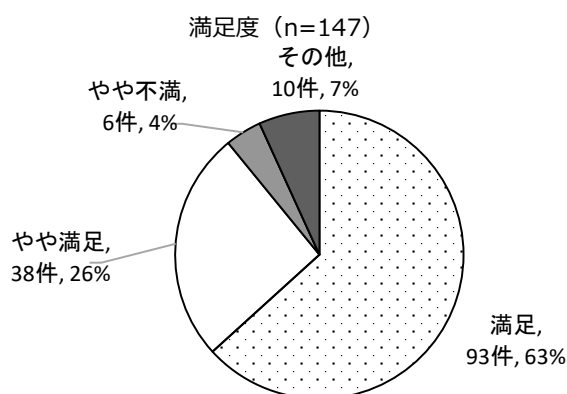


【参考資料】モニタリング時 満足度調査結果

■ 満足度

満足	93
やや満足	38
やや不満	6
不満	0
その他	10
	147

※その他10件：死亡3件、入院・入所2件
記録力低下のため覚えていない4件、訪問拒否1件



■「満足」と回答した方(82件)のコメント * 一部抜粋

1 医療・介護サービスの導入

- ・介護保険サービスへ繋がったため、とても助かった。
- ・少しずつ外から来る人に慣れて、介護保険を利用する道筋ができて良かった。
- ・本人が気に入るデイに通い始めることができた。家族とゆっくりと話をすることができた。
- ・介護保険サービス導入により家族の身体的、心理的負担軽減につながった。
- ・デイサービスの利用を勧めてもらえたことで、前に進むことができたので、感謝している。
- ・医療との関わりが全くなかったが、かかりつけ医が決まり、訪問診療の契約をすることができた。
- ・病院に定期受診するようになったことで一緒に外を歩くようになった。
- ・認知症の診断を受けるきっかけになり、診断を受けたことで漠然とした不安の軽減につながった。
- ・専門医の先生に受診することができ、本人の認知症の状況や対応方法についても理解できて良かった。
- ・介護用品やリハビリについて教えてもらったり、介護負担について話を聞いてもらって助かった。
- ・訪問リハビリテーションの方が来ると本人が張り切るので生活に活気が出る。

2 チームでの介入

- ・家族の事を専門職に客観的に診てもらうことができてとてもいい機会となった。
- ・チーム員に関わってもらうことで、次につながる支援が得られたので良かった。
- ・サービスの利用につながり、相談先も増えたことで安心感が得られた。
- ・チーム員の関わりが心強かった。

3 あんしんすこやかセンターの後方支援

- ・相談できるところができて良かったです。頼りにしている。
- ・糸口が見えないところから、やっと抜け出せた。相談する人がいることがとても心強いと感じた。
- ・食生活や内服薬の管理の状況なども把握でき、注意してみたいポイントも分かった。本人の意向も確認することができた。
- ・高齢者との関わり方について学ぶことができた。困った時の相談先ができた。
- ・認知症に対する理解や対応方法を知ることができた。相談先がある事は精神的にありがたい。

■「やや不満」と回答した方(5件)のコメント * 一部抜粋

- ・話を聞いてもらうのはありがたいけど、特に困っているわけではないので、そんなに来てもらってもすることが無い。
- ・自分でできるうちは、頑張れるところまでやりたい。病院には行く必要がないので中断した。
- ・話は聞いてもらったが、解決には至らなかった。本人は、話し相手になってくれて良かった。
- ・病名(認知症)が知りたかった。訪問自体は本人、家族の話を聞いてもらえて良かった。認知症の診断のため主治医から精密検査の提案をしているが受診に至っていない。夫の認知症への理解が乏しいことも課題になっている。